孝化粧萬年島田

五篇
六篇

五節上

から鮭と猫と組合の臺所

百ものがたり

這へ人も知る古人の附合、昂へ来る百物語てふ。戯をへーとそゝぐれど。うの百筋ある燈心を。一筋正なる消さまもて陽氣次第に衰へ〳〵。陰分盛なる夜に怖い〳〵の心から。批扱も辨輭首と見へ目籠も鬼の顔とやそえたゞき。其百とりの文字に因し例の百女の物語。婦女子の伽に編まへあまべ。理合に怯れる非語怪談那前よりから魚と猫と組合ふ立廻り果を目籠の目を取つる。批扱の裏へ入つる。支るやるゝんと將忘〳〵先年五編の端書を述ぶ。

明治三庚午稔孟春

爲永春水記

48-7629

元の和歌
町の唄女
三之吉
牛若
小僧
九郎吉

人丸まるあり猫写人

新
浮寸

新

浪

家實母散

中橋南傳馬町東側
千葉堂孝輔製

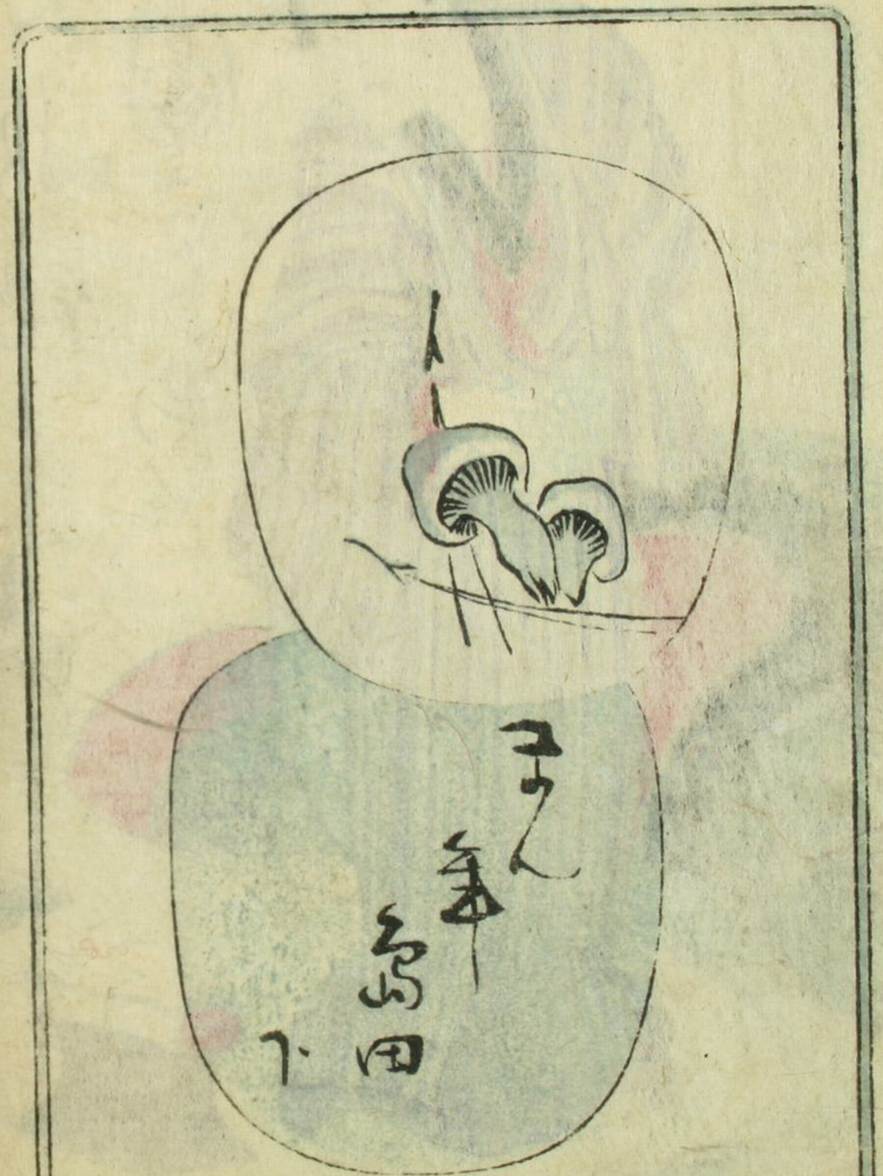
柳蔭月朝妻　六編迄　出板　山々亭有人作　梅朝樓國貞画

藪黄鶯八幡不知　五編迄　出板　山々亭有人作　錦朝樓芳虎画

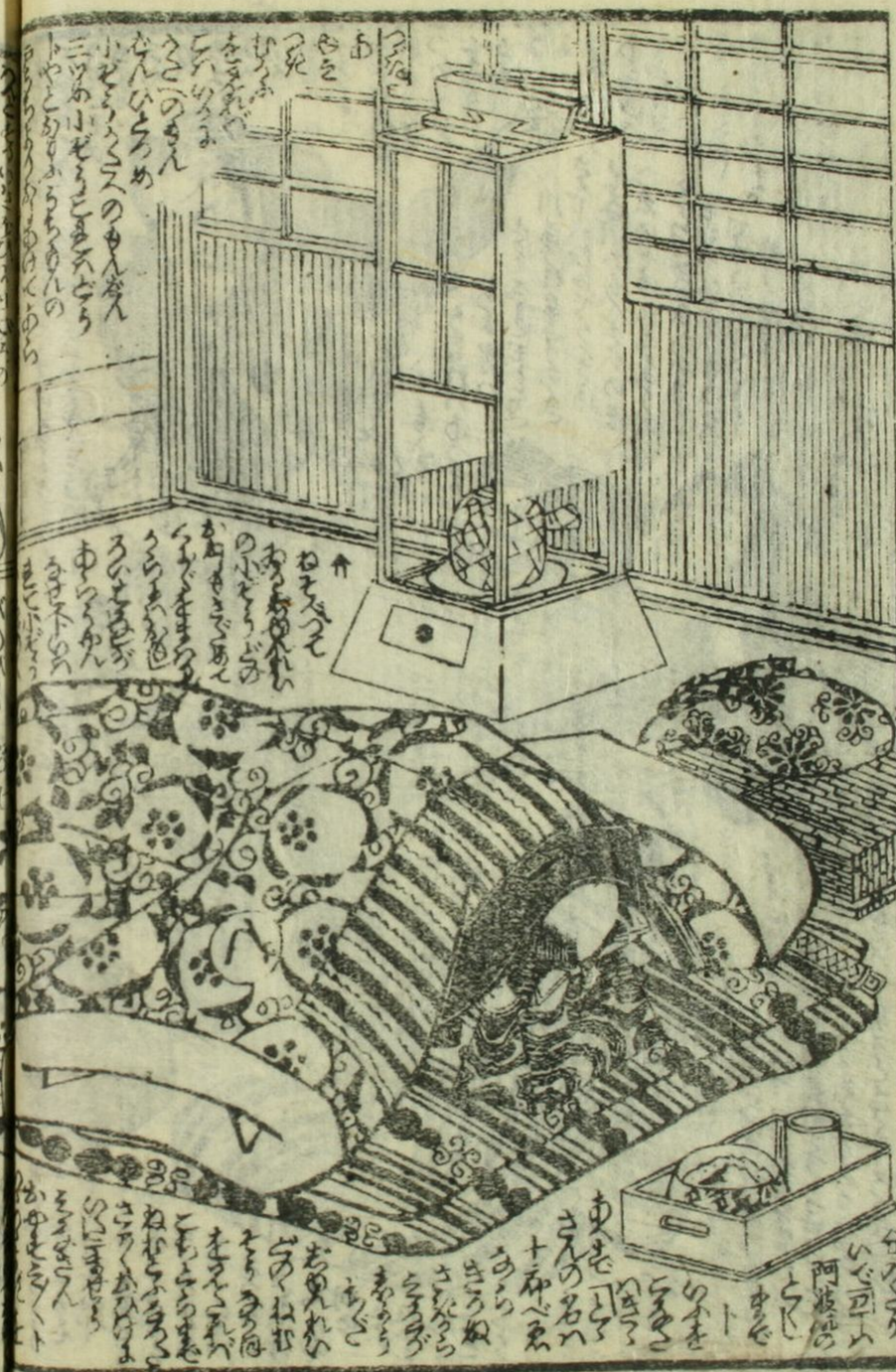
阿玉ヶ池櫛月形　初編ヨリ追々出板　山々亭有人作　陽斎豊國画

地本綿繪團扇問屋　紅英堂　蔦吉

五篇下


まん年
高田
下

三
次の月
厚七枚五



百

得
百

明治七年甲戌陽春開板標目

厚化粧萬年嶋 八編 九編 十編 春水作 國貞画

室町源氏胡蝶卷 廿三 種彦作 出板 國貞画

鼠祠通夜譚 八編 種彦作 出板 國貞画

童謡妙々車 二十九 種彦作 出板 國貞画

薄倀幼日記 廿迫 春水作 出板 國貞画

七夕ぎ鳥飾譚 十迫 種彦作 出板 國貞画

新局九尾傳 十三 春水作 出板 國貞画

筆海四國聞書 十二 種彦作 出板 國貞画

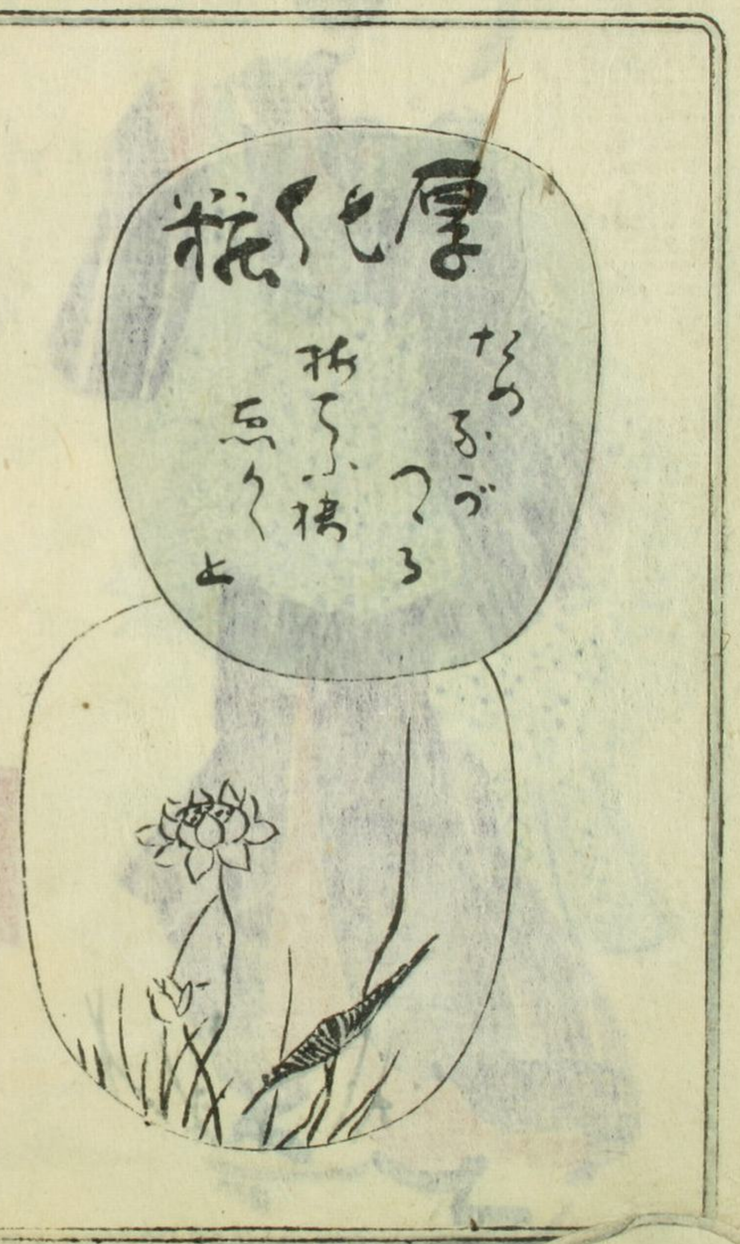
明鴉墨画繻襠 十九 種彦作 出板 國貞画

花封茗玉章 十編 種彦作 出板 國貞画

八犬傳大の双紙 五十九 柳亭作 出板 國政画

南傳馬町壹丁目 蔦屋吉藏板

厚化粧
當年
當用
六扁上



先書陽の春のそゞめき色香
沸人の心や春よりぬん梅の花の見咲初て
えよ野のふれの花よ春はるーと那謡曲よ諷
えるも實宜るれや春来まば墮落とらん例の持病の
花鳥の音よ引出されて机よ對えど何とやら上の空
のを詠め勝るるるよ書房の使来りて急ぎ此書りんと
促さるよ今いたやらき消よみらるの失るるる筆の
運びも乱拍子よ先端がりの席文ら面も冠らぞ
野面を誌ぞ

明治弟三庚牛孟春

爲永春水

八幡宮
奉納八幡宮
八幡宮
有賣新助
痣吉

奉納八幡宮
辰巳の阿百
得兵衛の一子

好夫及八
淫婦阿苦波

高仕入帳

後室
十
百

本町四丁目
歴吉屋
得

歌川國貞画
爲永春水作

水家
實母散
さんせんきんこ　中橋南傳馬町東側
ふとんちのみち　千葉堂孝輔製
一切のめ薬

柳蔭月朝妻　六編迫　出板　山々亭有人作　梅朝樓國貞画

藪黄鸝八幡不知　五編迫　出板　山々亭有人作　錦朝樓芳虎画

阿玉ヶ池櫛月形　初編より追々出板　山々亭有人作　陽斎豊國画

地本綿繪團扇問屋　紅英堂　蔦吉

為永作

國貞

畫

まつ
高田

這処と次の画ハ数七の物語ま合せ

八幡宮神楽禮

浅せん菓
新
堀

010190518243

明治七年甲戌陽春開板標目

厚化粧萬年嶋 八編 十九編 春水作 國貞画

室町源氏胡蝶卷 廿三 種彦作 出板 國貞画

鼠祠通夜譚 八編 種彦作 出板 國貞画

童謡妙々車 二十五 種彦作 出板 國貞画

薄倖幼日記 廿迫 春水作 出板 國貞画

七姿葛飾譚 十迫 種彦作 出板 國貞画

新局九尾傳 十三 春水作 出板 國貞画

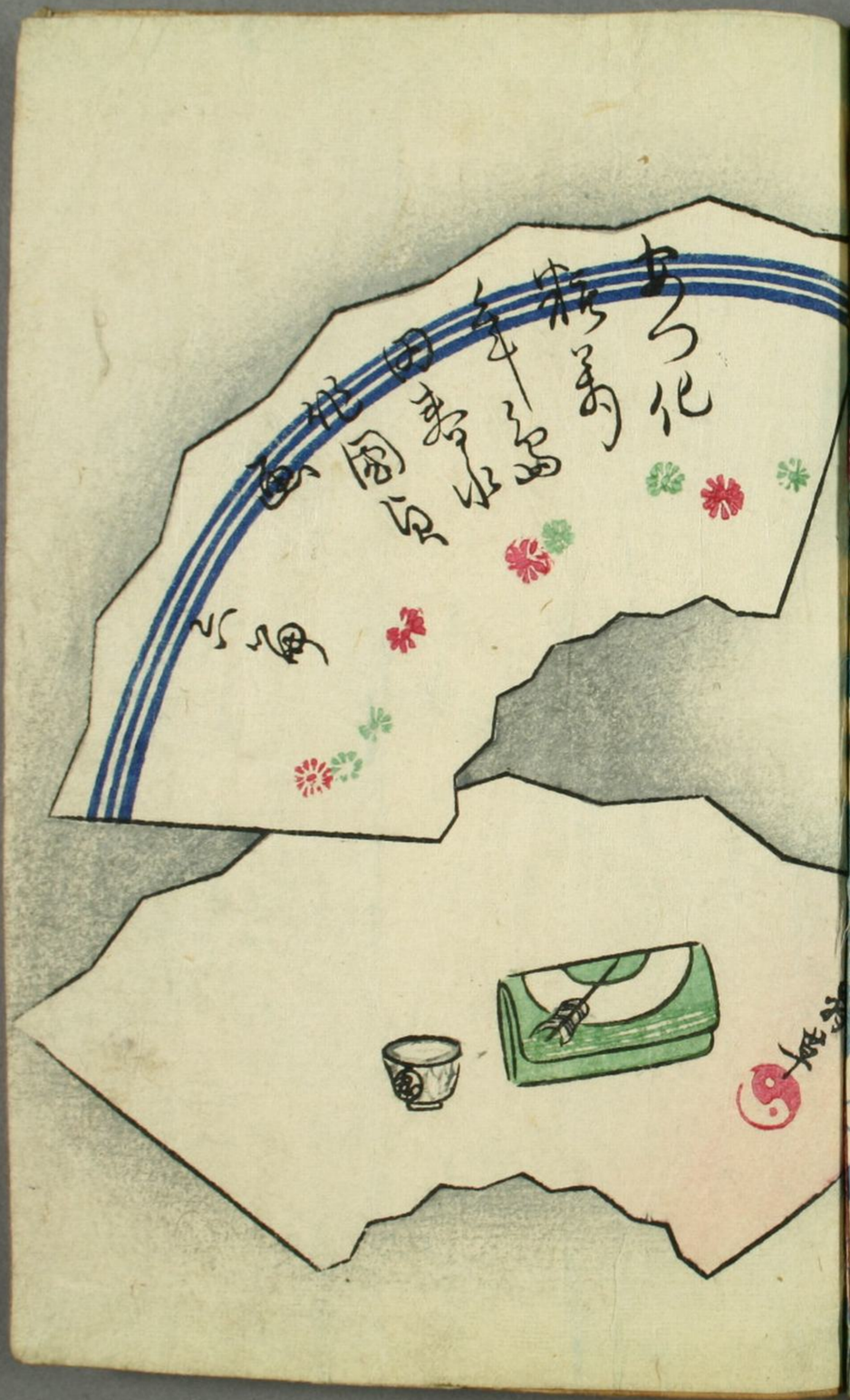
筆海四國聞書 十三 種彦作 出板 國貞画

明鴉墨画廼福禄 十九 種彦作 出板 國貞画

花封蓉玉章 十編 種彦作 大尾 國貞画

八犬傳大の双紙 廿九 柳亭作 出板 國政画

南傳馬町壹丁目 蔦屋吉藏板


梅の花
菊の花
寿の字
四季の花
四季の花